



私たちの
想い

原料玄米のその先へ ～生産者とともに作る、お米の価値～

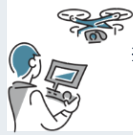
私たちアグリックは原料玄米を調達する中で、単にお米を買い付けるだけでなく、どのようなお米を誰と作っていくかを大切にしています。今回、当社が販売する種子【※ほむすめ舞】を使用して栽培に取り組んでいただいている生産者の皆さまにお話を伺いました。『今年は春先の寒暖差が大きく、苗の伸びに苦労した一方で、急激な気温上昇による病害虫リスクも意識しながらの栽培となりました。その中でも、土壌改良資材や堆肥を活用した土作り、稲の成長に合わせドローンを活用し、肥料を足すなど細かな工夫を積

み重ねています。また、現在の生産現場は決して楽な状況ではありません。肥料・燃料・農業機械など、あらゆるコストが上昇し、昔120万円の機械が今は300万円以上する。生産コスト増は経営に大きくのしかか

ってきている。』それでも生産者の皆さまは、品質を落とさないための工夫を日々続けられていました。また、若手への技術継承や、新しい栽培技術への挑戦も進められていました。今後も当社は生産者の皆さまとの対話を大切にし“顔の見える原料調達”を通じて、安心安全で価値あるお米を皆さまにお届けして参ります。



阿蘇涅槃像と田園風景



※ほむすめ舞
種子販売の
取り組み

夏の暑さに強く風にも倒れにくい「ほむすめ舞」は、育てやすくたくさん実る特徴と、ふっくら粘りある美味しさを兼ね備えています。当社はこの種子を販売し、収穫されたお米を購入することで、生産者の皆さまと協力しながら、美味しいお米の安定した確保を目指しています。

お米を
育てる

バケツ稲づくりに挑戦 vol.2

芽出し Day1-6

種もみを水に浸け、約6日程で白い芽が1mmくらい顔を出したら、いよいよ種まきができる状態になりました。



飛び出た姿が
かわいい！

種まき Day7-20

バケツに土を用意し、芽が出た種もみを6~7mmの深さに植え込むと、約10日程で3~4枚程の葉っぱが伸びてくれました！



苗の 移し替え Day21-

茎が太く育ちの良い苗を4~5本まとめ、バケツの中心に移し替える。ここから稲の枝分かれ「分けつ」が始まるのが今からとても楽しみです！



かわいい苗を
間引くのが
心苦しい...

おいしく
食べる

お米にまつわる豆知識

Q 夏にお米に虫が出やすいのはどうして？

気温が上がる夏は、特に虫が元気になる季節です。お米につく小さな虫の中には、米の中に卵を産む虫もいて、気温が高い状態が続くとその卵が孵化するため、夏は虫が発生しやすくなります。

Q 夏にお米はどうやって保存するのが良い？

涼しくて暗い場所が基本です。夏は部屋が暑くなるので、ご家庭では「密閉容器」に入れ、冷蔵庫で保管すると安心です。また、温度変化により、結露が発生し水滴がつく場合があり、これがカビの原因になるため、水分がついた場合はこまめに拭き取るのも重要です。尚、短期間で食べきれぬ量を購入するのもおすすめです。

POINT 夏は“温度と湿気”に要注意

季節のごはん紹介

夏越の祓 ～なごしのはらえ～

1年の前半の穢れを祓い、残り半年の無病息災を祈る毎年6月30日に行われる日本の伝統的な神事です。神社の境内に設置された茅（ちがや）で作られた大きな輪をくぐり災厄を祓い清める茅の輪くぐりや、紙で作った人の形に穢れや災厄を移し、川や海に流すことで厄払いを行う人形流しの他に「夏越ごはん」を食べる風習があります。「夏越ごはん」は雑穀ごはんの上に夏野菜で茅の輪をイメージした丸い食材をのせた行事食です。皆さまのお住いの地域ではどんな「夏越ごはん」がありますか？



無
病
息
災

ご感想やご意見を募集しております。
ぜひお声を聞かせください。

